

令和元年12月10日

東伊豆町議会  
議長 村木 脩 様

総務経済常任委員会  
委員長 山田 直志

## 議員派遣結果の報告

令和元年第3回定例会で承認された議員派遣の結果を報告いたします。

### 記

- 1 目的 総務経済常任委員会による先進地視察研修のため
  - (1) 市民農園について
  - (2) 観光振興について
  - (3) テレワークについて
- 2 派遣場所
  - (1) 和歌山県田辺市
  - (2) 和歌山県白浜町役場
  - (3) 和歌山県白浜観光協会
- 3 期間 令和元年10月8日(火)～10日(木)の3日間
- 4 派遣議員 総務経済常任委員会委員
- 5 派遣内容
  - (1) 市民農園について(和歌山県田辺市 秋津野ガルテン)
    - ア 田辺市の概要  
田辺市は人口約7万3300人、平成17年に5市町村が合併し、今の田辺が誕生した。世界遺産に登録された熊野古道は、熊野信仰の広まりにより形成された参詣道で、田辺市からは熊野本宮に向かう中辺路(なかへち)が知られている。

イ 農業法人株式会社「秋津野」概要（秋津野ガルテン）

法人設立：平成19年6月 資本金：51,800,000円

農業法人：全株主の1/2以上が農業者。取締役員の2/3以上が農業者。

代表取締役会長：玉井 常貴

受賞歴：第7回 オーライ！ニッポン大賞

第16回 オーライ！ニッポン大賞（グランプリ）

都市と農村の交流施設「秋津野ガルテン」は、田辺市立上秋津小学校の跡地を利用したグリーンツーリズム施設で、平成20年1月に地域住民が出資し誕生させた。都市と農村の交流を目的とし、地元の女性を作るスローフード農家レストランや宿泊施設に多くの人を集める。さらに、お菓子体験工房や旧木造校舎を生かした体験棟。また、地域のみかん作りの歴史を紐解いたみかん資料館なども併設している。

ウ 秋津野ガルテン設立までの経緯

平成6年地域づくり塾「秋津野塾」を基礎とし活性化の案をまとめ、自治体の支援を当てにせず5年後に直売所「きてら」を誕生させる。平成18年に法人化し、地域資源・地域力を生かした「秋津野ガルテン」を設立。おととし10周年を迎えたところであるが、農家民泊や農村ワーキングホリディの受け入れ、さらには熊野古道を訪れる外国人との交流を活発にし、海外からの修学旅行も積極的に受け入れている。

また、今年の2月には働き方改革を背景にしたサテライトオフィス「秋津野グリーンオフィス」を導入し、大学の研究室として貸し出したり、地元出身の起業家が利用するなどガルテンに新たな需要が生まれている。



玉井会長の話を聞く委員



農家レストラン みかん畑

## (2) 観光振興とテレワークの推進について（和歌山県西牟婁郡白浜町）

### ア 白浜町の概要

白浜町の歴史は古く、白浜温泉は愛媛県の道後温泉、兵庫県の有馬温泉と並んで「日本三古泉」と呼ばれ、飛鳥・奈良の時代から皇族が湯治に訪れていた。さらに、西の別府・東の熱海と並んで日本の三大温泉地に数えられ、近畿圏の有力な温泉観光地になっている。

明治22年の町村制実施によって「瀬戸船山村」と呼ばれたが、昭和15年の町制施行により「白浜町」となり、その後編入合併を重ね現在の白浜町となっている。人口は2万1400人、一般会計予算規模132億円である。



町のシンボル白砂青松の白良浜



白浜空港と白浜町の全景

### イ 観光振興について

東伊豆町はバブル期には180万人いた宿泊客入湯客（中学生以上）がいまは1/3近くまで減ったが、当町と同規模だった白浜町は190万人をキープしている。この要因として、昭和59年から平成20年にかけて行われたメインビーチである。

白良浜の養浜事業に力を入れてきたことや、海岸地域での公共下水道事業の整備を行い環境美化に力を入れてきたこと、最近では数多くの体験メニューを商品化し教育旅行や合宿誘致にも力を入れ宿泊者が伸びているという。さらに、民間の観光施設がジャイアントパンダの研究事業を誘致したことが観光に与えた影響も大きいと言われていた。



事業者の話  
を聞く  
委員

#### ウ テレワークの推進について

平成16年企業誘致を目的に貸しオフィスとして稼働したが、当時はテレワークについての理解が進まなかったこともあり事業がとん挫した。

しかし、県と連携して進めることにより入居企業が増えて行った。さらに、総務省が進める「ふるさとテレワーク事業」に積極的に乗り出したことにより知名度が増し「白浜町ITビジネスオフィス」は、3つ目を計画されるまでになった。これまでの入居実績として12社あり、移住者10名、地元雇用は30名を数える。

そのほかにも企業が独自に保養所を改修して事業所を設置する例もあり今年3月には80名以上の地元雇用を成し遂げている。このような背景には町が奨励金を交付し企業誘致に力を入れているとも言える。

視察後半はITオフィス「セールスフォース・ドットコム」を見学した。施設は、高台の海に面したオフィスには10名ほどの社員が業務を行っていた。

担当者は観光地でのオフィスについてリフレッシュに繋がると言い作業能率も上がっているとの説明を受けた。

また、地域との連携にも取り組み、地元の子ども対象にプログラミング教室を開催し、海岸の美化清掃にも積極的に関わっているという。

白浜町の魅力は東京から1時間のフライトで来られる立地条件もあるといい、今後「働き方改革」の高まりにより更なる需要が見込まれるとのことであった。



の  
一  
つ  
テ  
レ  
ワ  
ー  
ク  
の  
拠  
点

#### エ 白浜観光協会

旅館組合に加盟する22軒のホテル・旅館を中心に、60軒ほどの宿泊施設・観光施設で構成されている。会長の藤田さんは大手銀行に勤め、定年退職後に家業の温泉配給会社を継いだ方で、これだけの観光地でも旅館業でない方がリーダーという事には驚いた。

運営は、町からの補助金と協会加盟費、それと駐車場の利用料などで賄っている。夏季シーズンが集客の中心であるが、年間を通じた賑わい創出のためにキャンドルイベントやジオパークにも力を入れている。

また、コンベンションセンターとしての機能をホテルや旅館に持たせ国際会議誘致を目指している。

白浜温泉（椿温泉含む）の宿泊客は、190万から200万人を維持していて、夏の海水浴をメインにして熊野観光とジャイアントパンダの相乗効果があると言う。課題として人手不足が旅館経営に与える影響は大きく、各種イベントの実施についても人手が足りないとの声が聞こえるという。

また、宿泊施設はすべて耐震補強が終わっているとのことである。話を伺ったあと、南方熊楠記念館と京都大学白浜水族館を訪れ、ジオサイトの円月島を見学した。

### （3）感想・意見

#### ア 田辺市 秋津野ガルテン

農山漁村の体験や交流を図ることを目的に、平成6年「農山漁村余暇法」が制定された。このグリーンツーリズムの余暇活動は、都市住民に自然や地元の人とふれあう機会を提供し、農山漁村を活性化させる働きがある。グリーンツーリズムは、「働き方改革」の浸透により、一層の広がりを見せるものと思われる。さらに、今年はじめに国県の協力によりサテライトオフィスが建設されたことは、農村の新たなニーズに着目されたものといえよう。

「秋津野ガルテン」は行政主導ではなく、地域住民の問題意識から生まれた活性化施設である。そこでの特徴は、①地域の人々が、みんなで学び、みんなで計画（夢）をつくり、負担もいとわず、みんなで行動していること。②地域の中で「地元」「よそ者」など分け隔てなく、住む人みんなの参加で地域の力と活力を生み出している事だと考えられる。懐疑的であった住民も、出資することによって参加意識が高まり、農家レストランや宿泊棟の建設に至った。

#### イ 白浜町

白浜町は、この10年余の間宿泊客数は180万人から200万人台を維持している。夏には海水浴などで20万人を超える宿泊を頂点として、年間を通して毎月10数万人が宿泊されている。

この要因として、県営白浜空港、高速道路のＩＣ整備など県や６つの日帰り温泉、公衆トイレなど町の行政の支援、民間事業者（宿泊施設、観光施設）の資源開発やパンダ誘致など積極的な取り組み、６０を超える体験メニューの開発と温泉宿泊と並んで、地域資源を活用して観光客を受け入れる体制整備がブレる事なく黙々と行われてきた。観光地のビジョンや課題を行政と民間がよく共有されていると感じた。